

2025 年 6 月 10 日

## 2025 年総会議事録

日本ボンド磁性材料協会  
専務理事 大森 賢次

日時：2025 年 6 月 6 日(金) 14：30-15：30  
会場：アートホテル日暮里ラングウッド 3 階 シンフォニー

### 議題および審議結果

議決権数 58 社

委任状提出数 30 社

Onsite 参加会社 11 社

協会規約

(議決権) 第二章 第 8 条

(総会) 第四章 第 18 条 5 項および 6 項に準じて本会は成立とした。

(なお、役員、個人会員含めて、onsite 会議には 28 名ご参加頂きました)

第一号議案 2024 年度事業報告、収支決算報告  
(監事監査報告)

第二号議案 2025 年度役員選出

新旧役員挨拶

第三号議案 2025 年度事業計画、収支予算

第四号議案 その他

功労者表彰

上記 2025 年度事業計画は 2025 年度会計年度（2025 年 4 月 1 日～2026 年 3 月 31 日まで）

### 議長挨拶(有泉会長)

本日は御多忙の中、当協会 通常総会にご出席頂き有難うございます。協会の規約により、本日の議長を務めさせて頂きます JABM 会長の有泉と申します。宜しくお願い致します。

本題の議案審議に入ります前に、昨年 2024 年度活動状況と今年度 2025 年の方針を簡単に述べさせて頂きます。2024 年度、協会活動は全般的に順調に行えたと考えています。

まず会員の推移ですが個人会員が、ご年齢の関係でお仕事をリタイヤされる方がいるなど、減少したものの、法人会員は中国からの国際会員・賛助会員 A の増加などもあり、全体で見れば堅調であったと言えます。

具体的な活動につきましては、技術例会・シンポジウム・寺子屋 B M 塾・軟磁性材料研究会などのイベントも、計画通り開催でき、多数の参加者を得ることが出来ました。

軟磁性材料研究会の下部組織である圧粉磁心の規格化・標準化部会では、この分野では初めての試験方法ガイドブックの作成に着手して参りましたが、完成間近となり 2025 年度には会員の皆様に頒布可能になる予定です。

また、前年度から事務局業務引継ぎのため、事務局 2 人態勢で進めて参りましたが、2025 年度末まで 2 人態勢で定めない業務と引継ぎを進行致します。

JABM 校正用磁石セットの頒布も順調で Ver.3 は残 1set.となったので 2025 年度は Ver.4 を製作・頒布の予定です。

財政面は以上、述べました様な活動状況を反映して、収入が確実に入る一方、支出は大森専務理事 及び 木村事務局長の尽力で削減し 2024 年度は例年に比べても余剰金が出ました。

他の学会・協会が財政難に窮する中、当協会は誠にありがたい状況にあり、ひとえに会員皆様の、ご支援によるものと改めて感謝いたします。

2025 年度も気を引き締め、「皆様のお役に立つ協会」であることを基本方針として、技術の規格・標準化、新技術の紹介・啓蒙そして生産統計データの整備配信に取り組み、財政規律を守りながらも活発な活動を続けていく所存です。

以上、概要をお話致しましたが詳細は本日、ご審議頂きたく、各議案説明の中で示させていただきます。

## 議案審議

### 第一号議案 2024 年度事業報告、収支決算報告

#### 1. 会員の異動状況

正会員は入退会なしで 22 社

国際会員は 2 社入会で 15 社

賛助会員 A は 1 社入会で 21 社

賛助会員 B は入退会なしで 3 社

個人会員は 2 名入会、5 名退会で 52 名

国際個人会員は入退会なしで 2 名

名誉会員は変化なく 5 名

となった。

2025 年 4 月以降の動きは以下の通り

正会員はアルプスアルパインが退会で 21 社

国際会員は現在国際個人会員である RAO 氏が所属していた Beijing Zhong Ke San Huan High-tech Co., Ltd を退職するに当たり他の方を推薦して継続させたいとの申し出があったが、RAO 氏は特別扱いされていたということ伝え、他の方の継続は難しい、その代わりにぜひ法人会員として別途入会して欲しいとお願いしているところであり、もし入会が決まれば 16 社

賛助会員 A は新東工業とヘレウスの 2 社退会で 19 社

賛助会員 B は IRuniverse の入会が決まれば 4 社

個人会員は飯村氏 1 名退会、3 名(尾崎公洋、小柴寿人、大橋健 各氏)がすでに承認されており 54 名

国際個人会員は入退会なしで 2 名

名誉会員は羅陽氏のご逝去なされたので 4 名

年度末会員数推移で正会員と賛助会員 A の数に間違いが起こっていたことが判明したため修正した。

年度末の会員数推移を説明した。

#### 2. 2024 年度の活動報告

2024 年度の主な活動は、

理事会 4 回、企画委員会 5 回、技術委員会 6 回、編集委員会 2 回、評議員会 1 回、監事会 1 回、技術例会 2 回、シンポジウム 1 回、寺子屋 BM 塾 6 回、軟磁性材料研究会 2 回、圧粉磁心の規格化・標準化部会 2 回、新春公開セミナー1 回、賀詞交歓会 1 回であった。

#### 3. 会計報告

##### 3.1. 収入の部：

##### 3.1.1. 会費・入会金：

入会金は、予算 100,000 円に対して、法人会員 3 社の入会があり 50,000 円の差異(予算剰余)となった。

会費収入は、予算 10,470,000 円に対して 10,389,000 円となり 81,000 円の差異(予算未達)となった。

会費および入会金の合計収入は予算 10,570,000 円に対して 10,539,000 円となり、31,000 円の差異(予算未達)となった。

### 3.1.2. 雑収入 (協会誌広告収入とシンポジウム・例会収入は事業収入として扱う)

協会誌他売却収入は、予算 30,000 円に対して 39,450 円となり 9,450 円の差異(予算剰余)となった。

校正用磁石売却収入は、予算 60,000 円に対して 300,000 円となり 240,000 円の差異(予算剰余)となった。

その他収入は、BM News72 号の広告代金掲載代金振込で消費税分として誤って 3,000 円余計に振り込まれたものであり 2025 年の会計で差し引くことにした。

### 3.1.3. 事業収入 :

協会誌広告収入は、予算 1,000,000 円に対して 980,000 円となり 20,000 円の差異(予算未達)となった。

シンポジウム・例会収入は、予算 3,000,000 円に対して 3,111,600 円となり、111,600 円の差異(予算剰余)となった。

### 3.1.4. 特別会計より繰入は、予算、決算いずれも無しとした。

以上の結果、収入合計は、予算 14,660,500 円に対して 14,992,380 円となり 331,880 円の差異(予算剰余)となった。

## 3.2. 支出の部 :

### 3.2.1. 管理費 :

研究調査費は、予算 1,200,000 円に対して 681,786 円となり、518,214 円の差異(予算削減)となった。

会議費は、予算 500,000 円に対して 429,842 円となり、70,158 円の差異(予算削減)となった。

交通費は、予算 1,000,000 円に対して 733,310 円(事務局定期代他、退職して現在職に就いていない役員の交通費を含む)となり、266,690 円の差異(予算削減)となった。

通信費は、予算 300,000 円に対して 326,402 円となり、26,402 円の差異(予算超過)となった。

印刷費は、予算 700,000 円に対して 600,600 円となり、99,400 円の差異(予算削減)となった。複合機のリース代である。

事務管理費は、予算 7,900,000 円に対して 8,025,944 円となり、125,944 円の差異(予算超過)となった。

事務所費は、予算 2,500,000 円に対して 2,497,315 円となり、2,685 円の差異(予算削減)となった。

以上の結果、管理費合計は、予算 14,100,000 円に対して 13,295,199 円となり、804,801 円の差異(予算削減)となった。

### 3.2.2. 事業費 :

シンポジウム・例会費は、予算 2,500,000 円に対して 2,606,605 円となり、106,605 円の差異(予算超過)となった。

協会誌刊行費は、予算 1,100,000 円に対して 901,360 円となり、198,640 円の差異(予算削減)となった。

以上の結果、事業費合計は、予算 3,600,000 円に対して 3,507,965 円となり、92,035 円の差異(予算削減)となった。

したがって、支出合計は、予算 17,700,000 円に対して 16,803,164 円となり、896,836 円の差異(予算削減)となった。

## 3.3. 結論

予算では予備費を含めて 3,039,500 円の財産減としていたが、決算では 1,810,784 円の財産減となった。

予算に対して 123 万円ほど差異が発生した要因を考察すると以下の通りである。

#### 事業費：

シンポジウム事業を収入と支出のセットで考えると、予算では 50 万円ほどの剰余を見込んでいたが、決算も 50 万円となり、予算通り。

シンポジウム・例会費収入と協会誌広告収入合計で 9 万円の差異(剰余)があり、シンポジウム例会費と協会誌刊行費の支出合計で 9 万円の差異(削減)があったため事業費合計で 18 万円の差異が生じた。

#### 事業費以外：

協会誌他売却収入と校正用磁石売却収入の合計で 25 万円の剰余となり、管理費合計で 80 万円の削減となったため合計で 105 万円の差異が生じた。

大きな違いは校正用磁石の購入依頼が増えたこと、研究調査費が半分程度使われていないこと、交通費の予算が少し多めだったこと、事務管理費の予算が少し足りなかったことなどが影響している。

したがって、事業費と事業費以外の合計で 123 万円の差異が生じたことになる。

### 3.4. 貸借対照表総括表

#### 資産の部は、

流動資産として現金 29,053 円、普通預金 36,615,607 円、定期預金 5,341,881 円、前払費用 297,560 円であり流動資産合計 42,284,101 円である。

固定資産は差入れ保証金 1,170,000 円であり流動資産と合計して 43,454,101 円である。

#### 負債の部は

前受金 3,697,063 円

したがって、**正味財産は剰余金 39,753,627 円**となった。

### 3.5. 期首期末財産増減表

#### 資産の部

流動資産は期首に 44,271,911 円 期末 42,284,101 円で 1,987,810 円減

固定資産その他は、期首、期末 1,170,000 円で変動なし

**資産合計は期首 45,441,911 円 期末 43,454,101 円で 1,987,810 円減**となった。

#### 負債の部

期首 3,877,500 円、期末 3,700,474 円で 177,026 円減

したがって**正味財産は期首 41,564,411 円、期末 39,753,627 円となり 1,810,784 円減**となった。

### 3.6. 財産目録、剰余金処分計算書、預金残高証明書の資料を説明した。

## 監査報告

監事の皆様から以下の報告があった。(岩田監事報告)

「根里泰夫税理士立ち会いの下、5月28日(水)協会事務室で監事会を開催し、収支および財産内容について会計原則に従い監査を実行した。監査の結果、昨今の経済状況および企業状況にも関わらず剰余が生じ、収

支および財産の決算資料は健全かつ適正に処理されていることを確認した。」

**結論:**2024 年度収支決算は適法正確である。

**以上の結果について、参加者から特に問題提起はされず、第一号議案は承認された。**

## 第二号議案 2025 年度役員案

予め 2024 年度の役員の皆様に継続意思の有無を伺い、会長、副会長、顧問、評議員の皆様には継続していただけることを確認した。

理事については、諏訪建一郎氏(TDK)の辞任、岩田成弘氏(電子磁気工業)の就任を予定しており、それ以外の皆様には継続していただけることを確認した。

監事については、鈴木隆氏には継続していただけることを確認したが、岩田成弘氏は理事就任のため監事辞任となり、代わりに八木澤史彦氏(BY 国際特許商標事務所)の就任を予定している。

企画委員長、技術委員長、機関紙編集委員長は 2024 年度の皆様に継続していただけることを確認した。

### 理事

**退任** 諏訪 建一郎 (TDK(株))

**新任** 岩田 成弘 (電子磁気工業(株))

### 監事

**退任** 岩田 成弘 (電子磁気工業(株))

**新任** 八木澤 史彦 (BY 国際特許商標事務所)

**以上の提案について、参加者から特に問題提起はされず、第二号議案は承認された。**

## 新旧役員挨拶

岩田前監事新理事、八木澤監事にそれぞれご挨拶頂いた。

挨拶の内容は省略する

## 第三号議案 2025 年度事業計画案、収支予算案

2024 年度と基本的に大きく変わらない。

例えば、ナノテラスなどへの見学会を計画するかどうかご意見いただきたい。

大きな会社はすでにナノテラスの会員になっていると思われるが、皆さん如何か？

12 月の技術委員会でナノテラス見学会を次年度検討するとなっていたので、事業計画の関連団体との交流に入れておく。

計画を検討するうえで、例えば、ナノテラスの中村先生に磁性材料関係について講演していただき、見学会についてアンケートを採るなど良いのではないか。

などの提案を紹介した。

### 4. 予算書について

#### 4.1. 収入の部

第一号議案で述べた 2 社の新規入会は具体的にはなっていないが、可能性を考えて会費入会金収入は 1,050 万円とした。

シンポジウム例会費を 20 万円増とすることで、シンポジウム・例会費収入も 20 万円増とした。

協会誌広告収入、協会誌他売却収入は前年と同じにした。

校正用磁石売却収入は、現在 1 セット残っている状態であり、会員向けとして 4 万円とした。

## 4.2. 支出の部

研究調査費は、具体的な案がないため 20 万円減とした。

校正用磁石購入費は、140 万円とした。ただし、この費用は校正用磁石そのものを購入するわけではなく、校正用磁石セットを作製するための費用である。何セット作製し、幾らで頒布する予定か別途考えておき、また、その場合在庫品をどのように扱うべきかについて、税理士に別途相談することにした。

会議費、交通費、通信費は前年同額とした。

印刷費は、リース代のみとして 60 万円とした。

事務管理費は、事務所員の給与を月額 1 万円増も考慮して、30 万円増とした。

事務所費は、契約更新費の増額があるため 280 万円とした。

シンポジウム例会費は 270 万円とした。

協会誌刊行費は 100 万円とした。

### 予備費

23 年度までは一般会計の収入合計から支出合計を差し引いた値を予備費として計上してきたが、当年度収支差額が見かけ上大きすぎる値になっていたため、2025 年度も妥当な値として予備費として 100 万円計上することにした。

以上の結果、**予備費 100 万円を含み約 560 万円超過（実質は 460 万円超過）の予算**とした。

別途一般会計収支実績推移を説明した。

**以上の提案について、参加者から他に問題提起はされず、第三号議案は承認された。**

### 第四号議案 功労者表彰 その他

岩田監事が 2024 年度で退任されることになった。この功労賞表彰基準によれば、監事を 10 年務めて頂いたのが永年功労者となる。したがって、感謝状と金一封授与したい。

**以上の提案について、参加者から他に問題提起はされず、第四号議案は承認された。**

以上